

特集：交流会でつなぐ！ 中小企業診断士と経営者の輪

終章

ビジネス交流会の課題と 中小企業診断士に期待される役割



稲葉 寛

東京都中小企業診断士協会城北支部

1. 交流会の課題

4つの事例から交流会の課題を(1)~(4)の4つにまとめることができる。

(1) 交流会の継続

課題の1つ目は、交流会の継続である。主催者は自らの組織の目的を達成する1つの手段として交流会を位置づけているが、現時点ではいずれも目的達成の道半ばであり、今後の方向性を模索している。

たとえば、千葉県の地域クラウド交流会や信州アルプス大学では、地域活性化の目的を達成するために、場所や形を変えながら、地域を巻き込み、交流会を盛り上げる工夫を続けている。

(2) 参加者の満足度アップ

課題の2つ目は、交流会の参加者の満足度を上げることである。参加人数や実施回数を確保するために、主催者はさまざまな工夫を凝らしている。

たとえば、大阪商工会議所では、多種多様なテーマや開催条件を設定して、多くの会員が参加できる機会を作っている。千葉県の地域クラウド交流会では、ビジネスコンペの併設や応援隊の仕組みなど、参加者の積極的なかわりで参加意識を持たせている。柏ビジネス交流会では、新規枠を設けることで参加

者の固定化を防ぎ、毎回必ず新しい参加者と出会うことができるような工夫をしている。

(3) ビジネスマッチング

課題の3つ目は、交流会後のビジネスマッチングが不十分なことである。

大阪商工会議所のアンケート調査によると、25%がビジネスにつながったとのことだが、ほかは低調な状況だ。交流会後の行動は参加者自身に委ねられており、主催者も状況を追跡できていない点が最大の課題と言える。

(4) 交流会のイメージ

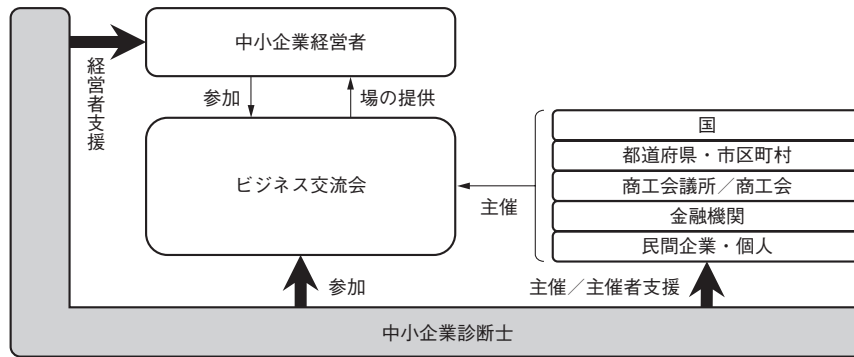
課題の4つ目は、交流会に対してマイナスのイメージを持たれることである。交流したい相手と出会えなかったり、さまざまな考え方をを持った参加者が集うため、時には感性の合わない相手と出会ったりなど、交流会そのものに、効果の低さやマイナスのイメージを抱いてしまうことがある。

このようなマイナス点を避けるため、主催者側も職種の偏りを防ぐ人数制限や、売り込みや勧誘の禁止などの参加条件を設けているが、主催者だけではコントロールできない部分もある。

2. 中小企業診断士に期待される役割

次に(1)~(3)の3つの観点から、中小企業診断士に期待される役割を記載する(図表)。

図表 中小企業診断士に期待される役割



(1) 主催者として／主催者の支援者として

国や自治体は、中小企業活性化のための施策を立案し、遂行している。中小企業基本法第18条では、国が中小企業者の交流を推進していくことを定めており、中小企業診断士も推進の役割を担う一員とも言える。

信州アルプス大学を主催する中小企業診断士の中村剣氏のように、中小企業診断士自身が交流会の仕組みを作り、実際の運営を進めていくことが最も中心的な位置づけで活躍する事例である。

また、千葉県の地域クラウド交流会を主催する中小企業診断士の篠原宏氏のように、事業の中で交流会のスキームを活用する事例は、ほかの自治体や団体でも有効なものである。

(2) 参加者として

中小企業診断士協会において、「中小企業診断士の日」の制定や新たなバッジの製作などの広報活動を進めているが、中小企業診断士自らが、自身の知名度を上げる活動を行うことが重要である。

千葉県の地域クラウド交流会では、ビジネスコンペの審査員として千葉県中小企業診断士協会が協力している。また、柏ビジネス交流会をはじめ、多くの交流会では、全体スピーチで自己紹介を行ったり、名刺交換相手に説明をしたりすることで、多くの経営者に中小企業診断士を知ってもらうことができる。

(3) 中小企業経営者の支援者として

経営者支援は、交流会の主催者や参加者から最も求められているが、最も不足しているものでもある。中小企業診断士の役割の1つとして、交流会後のビジネスフォローを行うことが必要である。

千葉県の地域クラウド交流会では、ビジネスコンペ優勝者に地元テレビ局や地域新聞などで宣伝する機会を提供しているが、今後は専門家派遣も検討中。柏ビジネス交流会でも、土業セミナーの併催を検討している。

交流会の参加者から、「中小企業診断士は何をする人か。どんなときに相談すればよいのだろうか」という声が聞かれる。中小企業経営者と中小企業診断士の垣根を低くすることも、中小企業診断士の役割の1つと考える。

3. まとめ

柏ビジネス交流会の稲川久実氏は、「交流会は決まった形がなく、主催者、場所、参加者の気持ちによって形が大きく変わる。最初に行った交流会を見て、自分の価値観で論じる傾向があるが、案外ずれているのでは」と語っている。今回取材にご協力いただいた方々に感謝するとともに、中小企業診断士が交流会に積極的に関与し、中小企業経営者の支援を行うことで、中小企業活性化につながっていくことを願っている。